



西條八十詩集

笹原常与編

青春の詩集 ㊹

西條八十詩集

© 1968

昭和43年5月5日 第1刷発行

¥400.

著作者	さい 西	じよう 條	や 八	そ 十
編者	さき 笹	はら 原	つね 常	よ 与
発行者	高	橋	謙	

発行所 株式会社 白 凰 社
東京都千代田区神田神保町 1—20
振替口座番号・東京 9 2 2 4 1 番
電話・東京(03)291—7571;8365番

落丁・乱丁本はお取り替えます。

大文堂印刷／和田製本

西條八十詩集

笹原常与編

西條八十詩集

笹原常与編



青春の詩集②

白 凰 社

目次

切花	三
詩集砂金抄	三
梯子	四
鶯	五
蠟人形	六
バステル	七
正午	六
桐の花	九
石階	二〇
鸚鵡	三

黒子	三
七人	四
文殻	五
蹴	六
誰か	七
朱のあと	八
薔薇	九
悲しき唄	一〇
風	一一
今日も	一二
柚の林	一三
柚の実	一四

三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四
---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----

躑躅 憊怠 鷄頭 St. Bernard
 海にて 芒の唄 顔 砂山の幻
 何処 陶器師の唄 欺罔
 胸の上の孔雀 顔の海
 冬の朝の鞆韃 失へる人形
 仮面 かなりや

𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎

詩集見知らぬ愛人抄

老人と帆 古き時計 崖の断層面 墓
 氷の上の籐椅子 落葉 掌 思慕
 白孔雀 空の羊 ころの月 室内風景
 夕星 幌馬車 三日月 書物

𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎

夢

詩集 美しき喪失抄

三十歳

羽根

詩作

我娘とねむる

我顔

秋の灯

蝶

謀板

少年行

紫の罌粟

電車の中で

ひびき

ある大晦日の夜の記憶

土偶

錦絵

三

五

六

六

六

七

七

八

八

八

九

九

九

九

九

九

九

一九二八年の春奈良にて

牧童の画に題す

母の部屋

わが家

檻

おそれ

銀杏

年

春日哀歌

迷児

蛸

心に

雲

詩集 一握の玻璃抄

一握の玻璃

述懐

断章

五

五

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

二

三

三

四

狼	二五
牡牛の夜	二六
秋望	二七
ここに……	二七
PARS PRO TOTO	二八
軍歌	二〇
水仙	二三
蝶と氷と	二三
余燼	二四
シュプレー河畔にて	二五
香の河	二六
小夜曲	二七
火の鳥	二八
或夜の歌	二九
音なき音を……	三〇
美しき灰	三一
幽星	三二
壘	三三
つくろひ	三三

車窓にて	二五
石と共に	二六
日だまりに居て	二七
鐘	二七
嘘	二八
抒情小曲集 抄	二〇
詩集 蠟人形 より	二三
指	二三
小さき恐怖	二四
詩集 彼女 より	二五
山茶花	二六
別後	二七
ある日の歌	二八
指環	二九
秘唱	三〇
ひとりめざめて	三一

二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

若き日

一四

赤き風

一五

たより侘びつつ

一四

廻燈籠の唄

一五

桐の花

一四

のうぜんかづら

一四

櫻の雪

一七

詩集 巴里小曲集 より

巴里の若者

一五

夕日の窓

一五

詩集 静かなる眉 より

一四

秋の夜の鳩

一四

山の旅人に

一五

海鳴る空

一四

涙もろき娘

一五

竜胆

一五

西條八十の人と作品

一六

詩集 赤き獵衣 より

一五

鑑賞ノート

一六

埋もれし春

一五

年譜、

一六

姉をおもふ

一五

索引

一六

海辺の墓

一五

破れし風

一五

西條八十詩集

切花

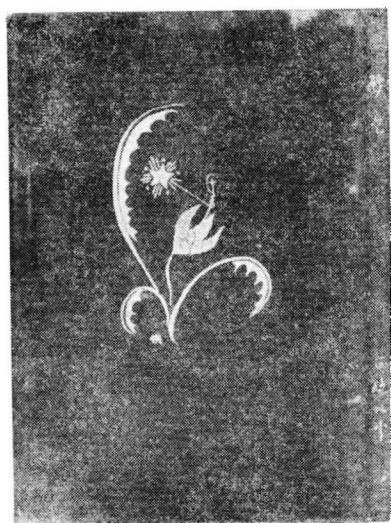
切花きりばなの後のあとさみしき花はな畠はたの
ひぐれに立ちつ、ものおもふ。

いくたび、そだて、咲かせつつ、
はかなくひとに贈おくりけむ。

切花の後のさみしき花畠はなはたに
イたみ、あはれ、詩をおもふ。

いくたび、難なみつ、くるしみつ
生みてはわれの老いにけむ。

詩集
砂
金
抄



梯子

下りて来い、下りて来い、

昨日も今日も

木犀の林の中に

吊つてゐる

黄金の梯子

瑪瑙の梯子。

下りて来い、待つてゐるのに――

嘴の紅く爛れた小鳥よ

疫病んだ鸚哥よ

老いた眼の白孔雀よ。

月は埋み

青空は凍ついてゐる、

木犀の黄ろい花が朽ちて

瑪瑙の段に縫るときも。

下りて来い、倚つてゐるのに――

色

光

遠い響を残して

幻の獣どもは、何処へ行くぞ。

待たるゝは

月にそむきて

木犀の花片幽か

埋もれし女の登音。

午は寂し

昨日も今日も

幻の獣ども

綺羅びやかに

黄金の梯子を下りつ上りつ。

鶯

おもふこと

ほのかなる月の夜に

あかるく

水のうへを

飛ぶうぐひす。

遠き月は

きたらず

翳るは

燗銀の水のいろ。

忘れえぬ

うつゝの牙や

幽ながら。